

Round 1

レースレポート

■開催概要

- 大会名称 : 2025 SUZUKA CHAMPION CUP RACE Round1
- 主催 : 関西スポーツカークラブ(KSCC)、グループ・オブ・スピードスポーツ(GSS)、鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- 後援 : 鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会(FEクラス)、国土交通省(F-Beクラス)
- 協力 : AASC、ARC、ARCN、KRHC、OCCK、チーム淀
- 競技 : JAF公認 準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス : 総参加台数/129台
 - FIT1.5.....20台
 - VITA.....30台
 - フォーミュラEnjoy.....24台
 - F-Be.....14台
 - v.Granz.....20台
 - スーパーFJ.....21台
- 開催日 : 2025年2月22日(土)・23日(日)
- 天候・路面: 22日(土)晴れ/ドライ 23日(日)曇り/ドライ



★レースリザルトはウェブサイトでご覧いただけます
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2025SUZUKA CHAMPION CUP RACE Round2
- 開催日 : 2025年5月10日(土)・11日(日)
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス : FIT 1.5 Challenge Cup、VITA、v.Granz、フォーミュラEnjoy



シリーズ名称が一新されてのシーズン開幕戦。最強寒波が襲来する中、v.Granz(写真)をはじめ計6レースの予選、決勝が無事に行われた

名称を変えて生まれ変わった由緒正しき4輪レース！ 路面改修を終えた鈴鹿で新しい一歩が始まった！！

1968年、鈴鹿サーキットで参加型レースとしてスタート。多くのドライバーがモータースポーツを楽しみ、激戦を繰り広げ、昨年で56年目のシーズンを迎えていた。当初「鈴鹿シルバーカップレース」の名で始まり、「鈴鹿フレッシュマントロフィーレース」に名称を変え、1996年からは「鈴鹿クラブマンレース」の名で親しまれてきた。その後約30年間続いた鈴鹿クラブマンレースの名前を、2025年シーズンから「SUZUKA CHAMPION CUP RACE」と改め、ロゴデザインも完全リニューアル。SMSC（鈴鹿モータースポーツクラブ）を含めた4つのクラブが共同でシリーズ運営を行うことになっている。

また、鈴鹿サーキットでは冬季期間にあたる1月6日～2月13日にかけて、東コースやピットロードの路面張替え工事を実施したばかり。高いグリップ性を確保しつつ、排水性も高めたコースで、伝統を受け継ぎながらも新たな展開を見せる4輪レースの開幕戦が行われた。

開催日の2月22日（土）、23日（日）ともに寒波の影響を受け、冷たい風が吹きつけるコンディションにもかかわらず、129台のマシンがエントリー。来場者にとっても場内スピーカーやコースサイドのカメラがリニューアルされたことにより、さらにクリアな音声・モニター映像でレースを楽しめる環境が整った。

2月23日には6つの決勝レースが行われ、多くのレースでセーフティカーが導入される波乱の多い展開が続いたが、大きなアクシデントはなく全レースが終了。馴染み深い車両が走る「FIT 1.5 Challenge Cup」のほか、「VITA」、「v.Granz」などレースに取り組みやすいマシンが次々と鈴鹿サーキットフルコースを疾走。参加型レースとして約60年間、愛され続けてきたシリーズが、名称を一新して新たな一歩を踏み出すことになった。



フォーミュラEnjoyでは、堀隼登が予選セッション3周目に2分26秒251をマーク。コースレコードを更新した

レースレポート

■FIT 1.5 Challenge Cup

徳升広平がポールポジションを獲得してレースはスタート。雨の影響もあり、セーフティカーランでの幕開けとなった。2周を終えてリスタートされたまさにその時、最終コーナー立ち上がりでクラッシュが発生。再度のセーフティカーランを余儀なくされる。レース再開後、トップの徳升は快走を続けると増本千春、中里紀夫、鍋家武が追う展開に。すると5番グリッドスタートだった坂野貴毅が追い上げを見せ、5周が終わる頃には2番手につける。徳升を捉えたい坂野だったが、タイムギャップはその時点で約15秒もの大差だ。レースは徳升が勝利、坂野、中里の順でフィニッシュラインを通過した。



レースは2番グリッドのおオタクユヤが勝利。オオタは2024年からの連勝となった



優勝したオオタクユヤ。2位は西田拓矢、3位には大社宥雅が入った

レースレポート

■VITA class

ポールポジションからスタートした上田裕司がホールショットを奪うと、中里紀夫、HIROBONといった上位陣が続いていく。ジェントルマンクラスのトップは、鍋家武も8番グリッドからスタートする。だが、オープニングラップで早くもマシンのコースアウトによりセーフティカーが導入される。上田を先頭に中里、HIROBONの上位陣がラップを刻むなか、レースは5周目から再開となった。ジェントルマンクラスのトップを鍋家と山谷直樹が争うなか、トップの上田がじわじわと逃げ始める。HIROBONは2番手につけるが、上田との差は埋まらない。レースは上田が逃げ切り勝利。ジェントルマンクラスは鍋家武がトップチェッカーを受けた。



上田裕司がポールtoウィン。HIROBONを始めとした後続を振り切った



満面の笑みを浮かべる上田裕司。2位にはHIROBON、西尾和早の順になった

■VITA class_マイスターズ・カップ



マイスターズ・カップの優勝は鍋家武。2位は山谷直樹、3位は大橋孝行。鍋家と山谷のバトルはレースを盛り上げた

■Formula Beat Class

「2025年 Formula Beat 地方選手権シリーズ」の開幕戦。2025年のFormula Beat (F-Be)は合計10大会、15レースを開催する予定となっている。鈴鹿での第1戦には14台が参戦。金井亮忠がポールtoウィンで開幕戦を制することになった。



レースは金井亮忠がポールtoウィン。終わってみれば終始、金井の安定した走りが際立つ結果になった



優勝を決めた金井亮忠。2位の酒井翔太は猛追も及ばず。3位にはハンマー井澤となった

Round 1

レースレポート

■Formula Beat Class_ジェントルマンクラス



ジェントルマンクラスの優勝は杉山寛、2位は植田正幸、3位は船井俊仁の結果となった

レースレポート

■v.Granz Class

富田星羅がポールポジションをゲットするが、2番グリッドスタートの大崎達也がホールショットを決めてみせた。大崎、富田、入谷敦司が上位陣を形成すると、2周目で富田は大崎をオーバーテイク。すぐにトップの座に返り咲いた。その直後、1コーナーで2台のマシンがコースアウトになり、セーフティカーが導入される。富田、大崎、関正俊、7番グリッドスタートの大山正芳が4番手にまで順位を上げてレースを盛り上げる。残り3周でレースが再開されると、富田と大崎がテールtoノーズのデッドヒートになる。だが、再びセーフティカーが導入され、順位はこのまま確定。富田が開幕戦のウィナーになった。



スタート直後こそ2番手になるものの、トップに返り咲いた後も冷静に走り切ったポールスタートの富田星羅が勝利を果たしている



優勝は富田星羅、2位は大崎達也、3位に関正俊。大崎は最後まで富田を追い詰めたが一步届かなかった

レースレポート

■スーパーFJ Class

箕浦稜己がポールポジションを獲得した決勝レース。ホールショットを奪ったのは、2番グリッドスタートの吉田馨だった。スタートダッシュに成功した4番グリッドの鈴木七瀬だったが、鈴木を含めた複数台が1コーナーでクラッシュ。オープニングラップからセーフティカーが導入される波乱の幕開けになる。ジェントルマンクラスのトップは9番手の山根一人がキープしている。レースが再開されると、箕浦は吉田をパスしてトップへ。だが、箕浦は4周目で痛恨のスピンを喫してしまい、トップには吉田がつけ、5番グリッドスタートの杉田悠真は2番手にまで順位を上げる。最終盤、杉田の追い上げもあったが、レースは吉田が逃げ切りに成功した。



ポールシッターの箕浦稜己はトップを走るも、痛恨のスピンでドロップしてしまった



優勝は集中力を切らさずに走り切った吉田馨。2位には、この日ダブルエントリーの酒井翔太、3位の元山泰成も終盤の粘りが光った

レースレポート

■フォーミュラEnjoy class

予選でコースレコードを更新した堀隼登が、堂々のポールポジションを獲得。スタートも成功させ、レースは堀を先頭にして吉田英翔、村瀬賢二、中島一郎が続くことになる。レース序盤で堀は単独になり、リードを築き始める。中島、村瀬をはじめとした複数台による3番手争いが白熱すると、6周目で2番手を走る吉田は、堀に対してテールtoノーズにまで迫る。吉田のプレッシャーに耐えてきた堀だったが、ファイナルラップでついに吉田がオーバーテイク。最後までもつれたレースは吉田が大逆転でトップチェッカーを決めてみせた。



ポールポジションスタートの堀隼登にとっては、悔しい結末のレースになった



大逆転で笑顔を見せる1位の吉田英翔。2位に堀隼登、3位は元山泰成

Round 1

レースレポート

■フォーミュラEnjoy class_マイスターズ・カップ



マイスターズ・カップの1位は総合でも8位チェッカーとなった山根一人。2位は古里拓、3位は高橋浩史

Voice of Pick up Driver & Team

この日、キラリと光った
ドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

v.Granzクラス開幕戦で堂々とした走りを披露。
シーズン好スタート決めた。

富田 星羅 選手 (monocolle)



Q: 決勝レースを振り返っていただけますか

「ポールポジションでしたが、スタートに失敗しました。でも、すぐにトップに戻れたのは大きかったですね」

Q: セーフティカーランもあったが難しさは

「リスタートは変に意識せず走ろうと心掛けました。大崎さんがぴったり付いてきていましたが、技術の高いドライバーの方だし、強引には仕掛けてこないだろうと想定して、とにかく冷静に走りました」

Q: 今後の抱負を聞かせてください

「鈴鹿サーキットでのv.Granzに勝ち続けること、それに『MEC120』にも参戦予定です。いろいろなレースで活躍したいです！」